

高校3年間で身につける力

より統合的に4技能を磨く

高校から教科書は、社会的な話題を扱いながら総合的な言語活動を行う「英語コミュニケーション」と、プレゼンテーション・ディスカッションなどの発信活動を行う「論理・表現」に分かれる。4技能をフルに活用することが求められる。

高1・1学期で気をつける単元・分野

■ 5文型

英文を構成する基本の型「5文型」は、ますます複雑になる高校英語攻略のカギとなる。

■ 時制

過去形や現在完了といった時制の文法が、高校では組み合わせられて新しい文法として登場する。

■ 不定詞・動名詞

不定詞や動名詞は、文の動詞そのものではないが、様々な役割を果たしていることに注目！

中学⇒高校でこう変わる!

長文はより長く、複雑化!

英文は、文章量が増えるだけでなく、哲学や科学、時事問題など、日本語で読んでも難しいジャンルであることも。長い主語や修飾語があったり、語句も難しくなったりするので、高校式の長文対策が必要になる。

語い数がさらに増加!

中学で修得する英単語は、約1600〜1800語。高校ではそれに加えて、新たに約1800〜2500語を学習する。読解やリスニングでは、難しい単語の意味を推測する力も必要になってくるので、丸暗記では太刀打ちできない。

文法は合体して進化する!

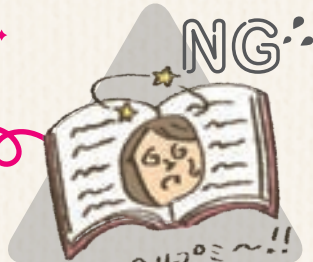
高校では、中学までに学んだ文法知識を組み合わせたり応用したりして、さらに深い内容を学んでいく。その文法を使って書く・話すといったアウトプットをしながら、よりいろいろな意味を表現できるようにする。

高校式勉強術

予習で「自力ではわからない」をあぶり出す



OK



NG

とりあえず全訳だと終わらない

予習をする時、まずはひと通り教科書の英文を読んで、どんな内容なのか&自力でわからない箇所をつかもう。そのうえで授業を受けると理解度が増し、注意する部分IIテストに出る部分がわかるように。

使い方&関連事項と一緒に覚えるクセをつける



OK



NG

単語は教科書の意味のみ覚える

まず教科書の本文中での意味を押さえてから、その単語を含む英文ごと覚えると、使い方までセットで身につけることができる。発音、アクセント、対義語・類義語など、関連情報も一緒に確認しよう。

文法も使い方と要点を押さえて使えるようにする



OK



NG

文法はバラバラ暗記だと使いこなせなくなる

ややこしい文法知識は、英文の中で理解することで、「この場合はこう」が身につく。ライティングやスピーキングにも応用できる力がつく。新出の文法を演習する時は英文を声に出して読み、手だけでなく目や耳もフルに使って対応力を磨こう。